グ状の岩壁が見える。あたりの状況から，１０年前，この谷を下降した記録があるが，ルートはかなり茶臼よりの谷より離れた所ではないかと思われ，今までF2が全貌を現わさなかったのは察しがつく。

時間的にはまだ早いので，Ｆ２以奥を偵察する為に，４０ｍ５ピッチ登る。急な灌木帯がやや開けた所から見る谷には，滝が３つ程有る。どれもが美しい滝であった。美しいゴルジュの中のＦ３は，落ちる水を滝壺ではね上げて虹を作っている。Ｆ４は，奥日光，湯本付近にある滝頭の滝を垂直に立てた様にいくえにも流れる美しい滝である。観賞するには良いが，いざ登るとなると，どれも登れそうもなく見える。

高度から察すると，あと少しでヒョータン池に抜けられそうなので，下降の予定を中止して，そのままコンティニュアスで進む。登りながら，今しがたシャッターをパチパチ切ってはいたが，はたして蛇腹の時代物の写真機で，貴重な写真がとれているか心配になって来た。そしてこれからは，もっと安心出来るカメラを持って来ようと思った。

白ガレの細いリッジを渡って，お花畑を越えると，足下にセピアに染った池が見えはじめて来た。

今日の事を誇らしく想いながらの下りは，色々な想いを派出させてくれた。

８月９日

昨日，はからずも上に抜けてしまったので，デポ品や，Ｆｉｘをはずさなければならないので出発を早める。今日はもう下山しなければならないから・・・・・・。

Ｆｉｘをはずした後，まる１日，雪渓の中に埋めてあった缶ビールのうまかった事。ふりかえりつつ，想いを新たに雪の上をすべりはじめた。

徳沢へかえると，昼食の用意が出来ており，パッキングをしながら手早くすませ，明日よりはじまるスバリ岳合宿に参加する為，混雑する上高地へと向う。

（檜山季樹　記）

アイガーだより

―ミッテルレギ山稜―

秋　山　正　人

アルピグレンの牧草地に張られた我々のテントを包む雰囲気は素晴らしいものだ。あたり一面の牧草に混じって高山植物が色とりどりに咲き乱れているし，アイガー北壁を落ちる雪崩の轟音や落石の或いは鈍く或いは鋭い音の切れ間には，カウベルのゴロンゴロンと云う牧歌的な響きが聞えてくる。何よりも乳色の霧がアルプにただよう時，谷間から流れてくるアルペンホルンの旋律はベルナーオーバランドの旋律そのものだ。

この素晴らしいキャンプサイトで我々は北壁の上部についている見ただけでも不安定な雪がもっと落着いてくれるのと，長い好天を待っていた。そしてその好天の初期にどうしても片付けて置かねばならない山行にアイガーのウエスト・フランケの偵察があった。ウエスト・フランケはアイガー北